



# 石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和4年1月14日

第9号

## 新年あけましておめでとうございます

校長 櫻井 弘

冬休み中も連日コロナウイルス（オミクロン株）の報道を気にしながらの生活であったかと思えます。1月7日には沖縄県、広島県、山口県にまん延防止等重点措置が検討されはじめ、3学期にスキー移動教室や延期した修学旅行など宿泊行事を予定している本校として心配の種は尽きませんが、皆さんは予定通り有意義に冬休みを過ごすことはできたでしょうか。

私は、昨年知り合いの先生から勧められていた本を読みました。それは「本日は、お日柄もよく」（原田マハ）という本です。この本は主人公がスピーチに関わることから、言葉のもつ力を意識し成長していく物語で、展開も面白かったしスピーチについての考え方もとても参考になるものでした。本の中にはたくさんの素敵な表現があったのですが1つだけ紹介します。「困難に向かい合ったとき、もうだめだ、と思ったとき、想像してみるといい。3時間後の君、涙がとまっている。24時間後の君、涙は乾いている。2日後の君、顔を上げています。3日後の君、歩き出しています。」、物語の中でつらい経験をしている人を励ますために使われていた言葉です。学校の図書室にもありますので時間のある時に手に取ってみてください。（引用：徳間文庫「本日は、お日柄もよく」原田マハ）

さて、年頭にあたり今後の石神井中の方向性について考えてみました。本校の目指す学校像は次の通りです。（令和3年度学校経営方針“目指す学校像”より）

- 1 生徒が通いたくなる学校（楽しい学校 多くのことを学べる学校 成長できる学校）
- 2 保護者が信頼を寄せる学校（安心して通わせられる 学校の様子が見える）
- 3 地域が誇りに思う学校（地域から学ぶ 地域に貢献できる）

このことを具体的に実行していく過程で、「1の生徒が通いたくなる学校」において「生徒」という言葉を「全ての生徒」とできるように取り組んでいきたいと考えています。例えば、生徒が正しい判断力を持ち主体的に学び行動する機会の保証や、生徒一人一人に寄り添った個別対応の充実です。生徒の中には登校するということがハードルになってしまい、個別の対応を必要としている場合があります。また、生徒が自分たちの学校生活をより充実させるために、自ら考え時には議論し実行する力、つまり自治について学ぶ機会も学校の大切な役割だと考えています。約670名の生徒の安全・安心な学校生活のための最低限の約束事は共通理解・共通実践をしながら、今後も生徒に身に付けてほしい力や学校としてできることについて整理し、信頼される学校づくりを進めてまいります。個別の対応に関して相談等がございましたら遠慮なくご相談ください。

今年もはっきりと先の見えない状況は続きますが、保護者の皆様、地域の皆様には、本年も変わらぬご理解・ご協力・ご支援をお願いいたします。令和4年（2022年）が皆様にとって、良い年となりますよう祈念いたします。